

【別紙 2】

審査の結果の要旨

氏名 道端 伸明

本研究は精神疾患の一つである摂食障害に対する補助栄養療法の効果を検討するため大規模データを用いたデータベース研究であり、下記の結果を得ている。

1. 2 年 9 か月の研究期間中に 540 病院から 3,611 名の摂食障害患者を同定した。その内訳は、神経性やせ 71%、非定型神経性やせ症 2.4%、神経性嘔吐症 1.4%、その他の摂食障害が 4.2%、摂食障害（詳細不明）が 20%であることを明らかにした。また、約 94%が女性で約 43%が 10-19 歳、対象患者全体の平均 BMI は $13.1 \pm 1.9 \text{ kg/m}^2$ であることを明らかにした。
2. 摂食障害患者の院内死亡が 1.1%認められることを明らかにした。
3. 院内死亡した患者で最も多かった身体合併症は敗血症（20%）と播種性血管内凝固症候群（20%）であることを明らかにした。
4. 摂食障害患者全体で経管栄養を使用したのは 708 名で使用期間は中央値 28 日（四分位範囲 11-60.5 日）、中心静脈栄養を使用したのは 352 名で使用期間は中央値 28 日（四分位範囲 13-52 日）であったことを明らかにした。
5. 摂食障害患者に対する経管栄養と中心静脈栄養の比較では、入院期間には有意な差は無かったが、中心静脈栄養群では経管栄養群に比べて、院内死亡割合や身体合併症割合が大きかったことを明らかにした。

以上、本研究は大規模データベースを用いて、これまで十分に明らかにされていなかった摂食障害患者に対する栄養療法の効果の知見について重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。